Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター
March 2025 No.86



特集

紛争下の子どもを守ろう

©Roni Ahmed / Save the Children

紛争下の子どもを守ろう

2024年、世界中で59の紛争が起き(*1)、第二次世界大戦後、
最も多くの紛争が発生していると言われています(*2)。
そして現在、世界で6人に1人以上にあたる4億7,300万人を超える子どもが、
紛争の影響を受ける地域で、恐怖の中生活をしています(*3)。
私たちは、どうしたら子どもたちを守ることが
できるのでしょうか。

紛争の影響を受ける地域で、
恐怖の中生活をしている子どもの数
現在 **4億7,300万人以上**

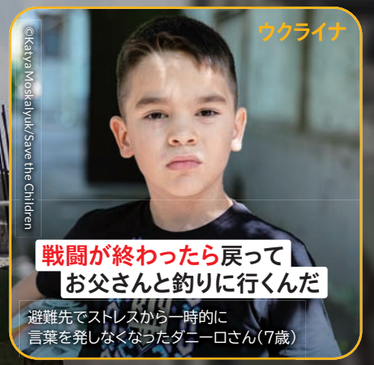


家や学校、病院などすべてが破壊された道を歩く子どもたち(パレスチナ・ガザ地区)

(*1)The Peace Research Institute Oslo (PRIO), https://www.prio.org/publications/14006
(*2)Global Peace Index : https://www.visionofhumanity.org/highest-number-of-countries-engaged-in-conflict-since-world-war-ii/
(*3)PRIO:https://blogs.prio.org/2024/10/473-million-children-live-in-conflict-zones/



紛争により避難を余儀なくされた
スンドゥスさん(13歳)



避難先でストレスから一時的に
言葉を発しなくなったダニーロさん(7歳)



避難先で高熱と嘔吐、下痢に苦しむ
サンディさん(7歳)



銃弾により片足を負傷したサレハさん(15歳)

紛争下では、子どもたちは多くの危機に直面します。

爆弾や銃撃などの攻撃によって傷ついたり、命を落としたり、
家族から引き離される子どもがいます。
家や学校、病院は破壊され、子どもたちにとって
安全な場所もなくなります。学校に通うことも難しくなり、
子どもたちは教育を受ける機会を失います。
紛争下にいる子どもたちの想いとは―



セーブ・ザ・チルドレンの学習プログラムに
参加するチャンセルさん(9歳)



自宅が破損し、避難を余儀なくされた
ソフィアさん(13歳)



友だちと遊んでいて空爆され、重傷を負った
アハメドさん(10歳)

紛争下に生きる子どもを当たり前にしないために



紛争や暴力によって
家を追われた子ども

4,720万人

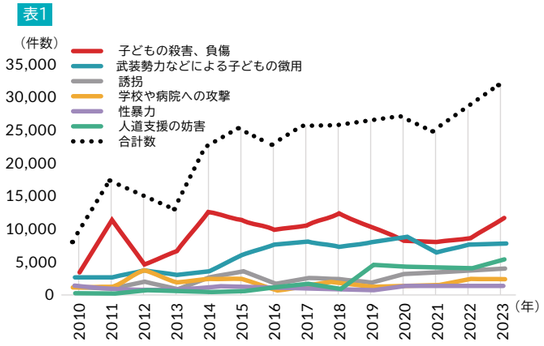
2023年末時点で、紛争や暴力によって4,720万人の子どもが家を追われました。世界人口に占める子どもの割合は約30%ですが、難民に限るとその割合は40%、自国内に避難する避難民では49%にも達しており、紛争などにより避難を強いられる人たちの中で、子どもは特に高い割合を占めていることが分かります。命を落としたり、負傷したり、学校に通えなくなったり、基本的な医療が受けられない、深刻な栄養不良におちいるなど、子どもたちの権利侵害が世界中で急増しています。

2023年の国連のデータによると、世界の紛争地で暮らす2万2,557人の子どもに対し、明らかになっただけでも3万2,990件の重大な権利侵害が確認されました。この「子どもに対する重大な権利侵害」とは、子どもの殺害、負傷、武装勢力などによる子どもの徴用、誘拐、性暴力、学校や病院への攻撃、人道支援の妨害を指しています。2010年時点では、同様のケースは1万件弱でした(表1参照)。2023年に確認された3万件を超える子どもへの重大な権利侵害ケース数は、記録を開始して以降最多を更新しています。そして、昨今の情勢を踏まえると、2024年の子どもの被害件数はさらに増加する見込みです。

紛争下に生きる子どもたちが直面しているこのような状況は、子どもたちの誰ひとり、人生の1日たりとも、本来経験するべきものではありません。紛争下に暮らす子どもたちの生活を世界の日常にしては決してなりません。

この現状を変えるため、セーブ・ザ・チルドレンは、紛争地や子どもたちの避難先での取り組みを強化し、子どもたちの命を守り、より良い未来を作るため、世界中で活動を続けています。

表1



紛争下でも学びつづけるために

紛争地域では、子どもたちの学びは大きく妨げられています。2024年末の時点で、紛争影響地などに暮らしている子どもたちの3人に1人、約1億300万人の子ども(*)が学校に通えない状態にあります。紛争や暴力の影響により、学校が破壊されたり、別の目的に利用されたりして、教育を受ける機会が奪われています。紛争のような緊急下では、子どもたちの学びは、大人たちの関心ごとから取り残され、優先度が下げられがちです。

アフリカ南東部に位置するモザンビークでは、2017年に武力紛争が激しくなり、現在まで断続的に武力衝突が起きています。このような紛争下、多くの子どもたちが十分な教育を受けることができていません。私たちは、衝突が続くモザンビーク北部において、長期にわたって学校に通えていない6歳から15歳の子どもたち約6,000人に、基本的な読み書き・計算を教える代替型の授業と、文房具などの学用品を提供しました。


モザンビーク　受け取った学用品を手にする子どもたち

子どもたちのこころを守るために

紛争地に暮らす子どもたちは、暴力や破壊、家族の死などを目の当たりにすることで、こころの健康にも深刻な影響が及んでいます。私たちは、子どもたちが緊急下でも、安心して学んだり遊ぶことができ、日常性を少しでも取り戻せるように、こどもひろばなどの設置を通して、こころのケアにも取り組んでいます。


レバノンの北部にある避難所でのレクリエーション活動

予防可能な疾病で命を落とさないために

紛争下に生きる子どもたちの栄養不良も深刻化しています。紛争によって、地域の食料供給のシステムが機能しなくなったり、人道支援が届かないためです。また、医療へのアクセスも大きく影響を受けています。予防接種を受けられていない、または不十分な子どもの約40%は紛争地域に住んでおり、麻疹やポリオなど、乳幼児期に適切な予防をしていれば防ぎうる病気にかかりやすい状況です。

セーブ・ザ・チルドレンでは、パレスチナ・ガザ地区に緊急医療ユニットを派遣し、人々の命を救うために医療支援を行ってきたほか、飢餓のリスクがもっとも高い同地域に、現地パートナー団体を通じて緊急の食料パックの配布や、少額現金の支給などを実施しました。

紛争そのものをなくしていく

セーブ・ザ・チルドレンは、すべての関係者に対し、紛争下における子どもの権利保護への約束を果たすよう強く求めています。しかし、紛争そのものをなくすこと以上に子どもを守る手段はありません。そのため、各国政府や関連機関が、紛争下で暮らす子どもたちの保護に加えて、紛争予防や紛争解決、平和構築に最優先に取り組むように世界各地で訴え、必要に応じて関連機関を支援することも、私たちセーブ・ザ・チルドレンの重要な役目です。

参考文献:Stop the War on Children: Protecting children in 21st century conflict, Save the Children (2019)
Stop the War on Children: Pathways to peace, Save the Children (2024)
Secretary-General Annual Report on Children and Armed Conflict (2024)

(*)https://www.savethechildren.net/news/2024-review-one-three-children-conflict-and-fragile-countries-out-school-new-analysis

子どもの貧困と子どもの権利意識、
国内最大規模の全国3万人調査結果から

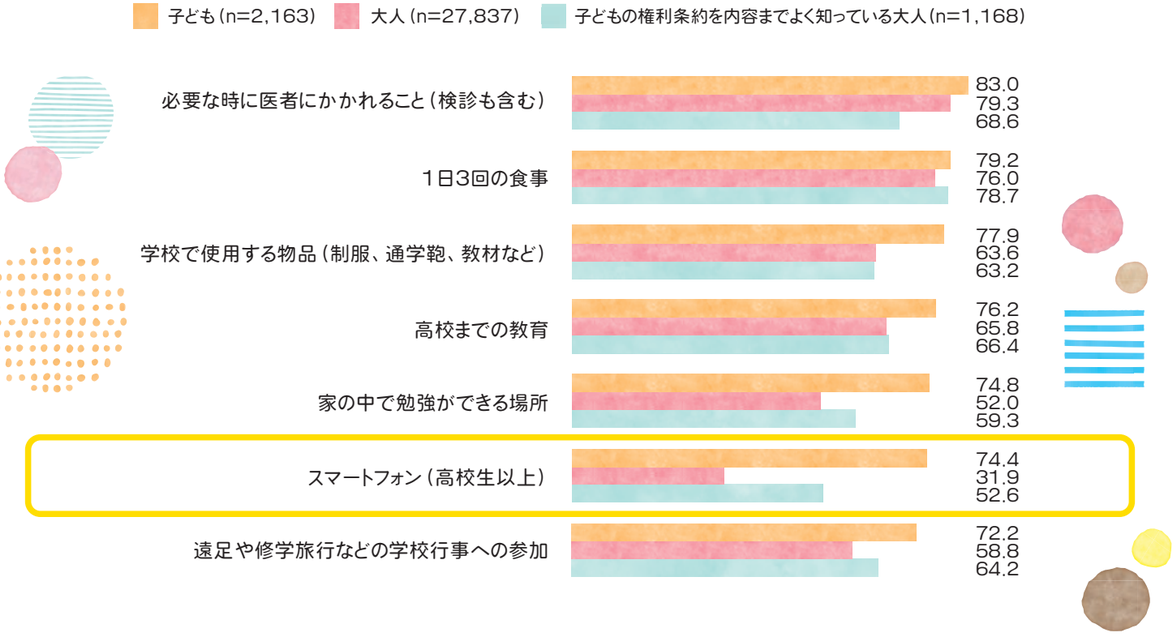
子どもにとって必要なもの、大人はわかっていますか

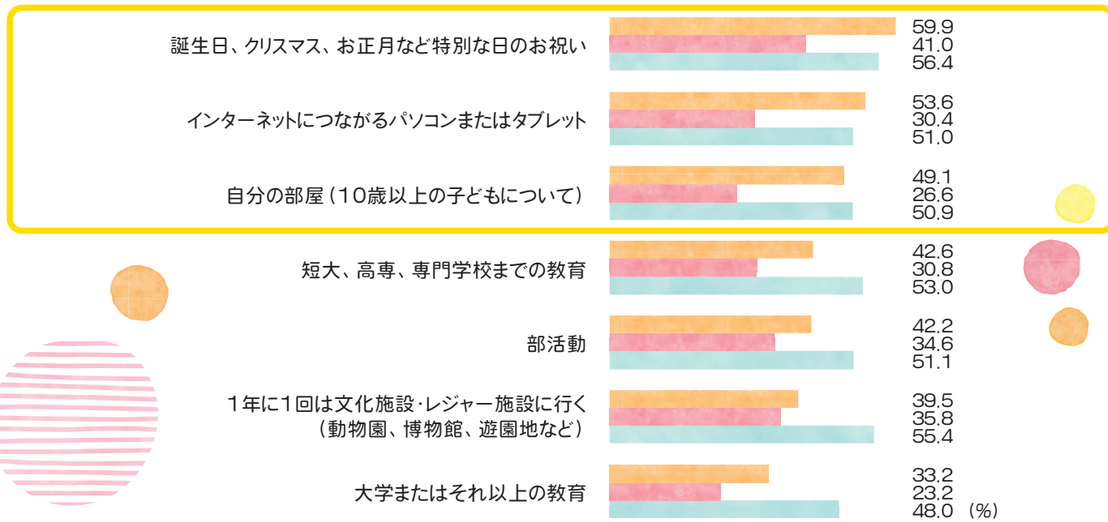
セーブ・ザ・チルドレンは、「子どもの貧困」と「子どもの権利」について2019年以来5年ぶりに、国内最大規模となる、「全国3万人意識調査」を実施し、その結果を2024年11月に公表しました。この調査は、Webアンケートを用い、全国の15歳から80代以上までの3万人（15歳～17歳の子ども2,163人、18歳以上の大人2万7,837人）を対象に行いました。
また、経済的に困難な状況にある当事者（子ども、保護者）にも調査を実施し、全国13歳から70代以上までの2,393人（13歳～17歳の子ども177人、18歳以上の大人2,216人）から回答を得ました。調査結果の一部を紹介します。

子どもも大人も大部分は同じものが子どもに必要だと考えています。ただし、**「スマートフォン」「インターネットにつながるパソコンまたはタブレット」「自分の部屋」「誕生日、クリスマス、お正月など特別な日のお祝い」**については、大人は必要だと思っていなくとも多くの子どもが「子どもにとって必要」だと考えており、子どもにとって必要なものは、大人の意見とは異なることがわかります。

また、子どもの権利条約を内容までよく知っている大人は、14項目中12項目において、子どもにとって必要だと選択する割合が大人全体より高くなっており、子どもの成長・発達を考える際に、より良い環境を整え、機会を提供することが重要だと認識していると推察されます。ここから、子どもの権利条約をよく知ることで、子どもにとってなにが最善であるか、理解が深まると考えられます。

Q.（以下の項目は）現在の日本の社会における子どもの生活に必要であり、欲すれば、すべての子どもがこれを持つことができるべきと思いますか。（複数回答）＊





＊質問作成の際には、厚労科研「子どもの貧困の実態と指標の構築に関する研究：平成26年度総括研究報告書」および厚労科研「貧困・格差の実態と貧困対策の効果に関する研究：平成24年度総括研究報告書」、東京都「子供の生活実態調査」（2016年）を参照した。数値は、「必要であり、すべての子どもが（欲しければ）これを持つことができるべきである」を選択した割合である

＜調査概要＞
【調査方法】調査会社によるWEBアンケート配信とセーブ・ザ・チルドレンによるWEBアンケート配信　【集計・分析】公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
【調査協力・監修（所属）】調査協力 阿部彩（東京都立大学）、安部芳絵（工学院大学）、山野良一（沖縄大学）　調査監修 阿部彩・平田裕美（東京都立大学子ども・若者貧困研究センター）※50音順
【調査期間】2024年7月24日～7月31日
【調査対象】・調査会社にモニター登録している全国15歳（中学生除く）～80代以上（内訳）子ども（15－17歳）2,163人、大人（18歳以上）2万7,837人
・セーブ・ザ・チルドレンが2020年から2024年までに行った「子ども給付金～新入学サポート～」、「子ども給付金～高校生活まなびサポート～」、「子どもの食 応援ボックス」、「ハロー！ベビーボックス」を利用した非課税世帯などの全国13歳～70代以上（内訳）子ども（13－17歳）177人、大人（18歳以上）2,216人
参考）2019年時調査報告書　子どもの貧困について：https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/kodomonokenri_sassi.pdf
子どもの権利について：https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/ishiki_hinkon202006.pdf

くわしくはこちら
3万人アンケートから見る
子どもの貧困と
子どもの権利に
関する意識 2024

Q. 子どもの貧困に関連して、あなたはどのような時に子どもの権利が守られていないと感じますか。（自由記述）

子どもの声

- ナプキンを買えない女の子がいる時（島根県・15～17歳・男性）
- 給食費が払えなくて怒られてるのを見た時（愛知県・15～17歳・男性）
- 親が離婚した時に養育費を払わない親がいること（埼玉県・15～17歳・女性）
- ごはんを食べさせてもらえない子がいることを知った時（群馬県・15～17歳・女性）

経済的に困難な状況にある子どもの声

- ご飯を食べられていない時（静岡県・13～14歳・男性）
- 養育費がもらえない（神奈川県・13～14歳・答えたくない）
- 学校に通う定期代が払えない時（東京都・15～17歳・男性）
- 学校の道具を買えない、習いたいものが出来なかった（静岡県・15～17歳・女性）

（ ）内は回答者の居住地・年代・性別

Q. 子どもの貧困問題を解決するために、国や自治体にのぞむことはなんですか。総理大臣やこども家庭庁の大臣、長官に伝えたいことがあれば書いてください。（自由記述）

子どもの声

- 誰一人、見捨てないでほしい（埼玉県・15～17歳・女性）
- 必要最低限の生活だけでなく子供だから味わえる楽しみや幸せなどの娯楽も含めて補償してあげてほしい（東京都・15～17歳・女性）
- 無料で何か学んだり楽しんだりできる施設を増やして欲しい（福岡県・15～17歳・女性）
- 子供に意見を求める場や多様性を意識した対策をして欲しい（神奈川県・15～17歳・女性）

経済的に困難な状況にある子どもの声

- もっと真剣に実態を調べてもらいたい。無理だと思うが。（奈良県・15～17歳・男性）
- 貧困は親の収入だけで決めるのではなく子どもにも聞いて！子どもには子どもの世界があって友達付き合いも大変。周りの友達が裕福だと大変（千葉県・13～14歳・男性）
- 国民の声を聞こうともせず、対策してるフリだけな政治家。誰も期待なんてしていない！（宮城県・15～17歳・女性）
- 貧困が理由で夢を諦めたくないです。大学や専門学校を卒業するまでの、教育費を支給して欲しいです。（宮崎県・13～14歳・女性）

（ ）内は回答者の居住地・年代・性別

能登半島地震・豪雨緊急復興支援

2024年能登半島地震子どもアンケート ～震災から半年 いま伝えたい子どもたちの声～

能登半島地震から半年が経過した2024年7月、被災地域の子どもたちの地震や復興についての思いや意見を聴くために、小学4年生から高校生世代を対象にアンケート調査を実施。2,053人の子どもたちが回答を寄せてくれました。その集計結果と子どもたちの声をまとめた報告書の速報版を、8月29日と30日に石川県知事、石川県教育委員会、アンケート周知の協力を依頼した5市町などに提出し、復興計画や防災計画、学校での子どもたちの声の反映を提案しました。各自治体は、子どもたちの声を真剣に受け止めてくれました。



アンケート結果報告書速報版はこちらから

アンケートのハイライト

能登半島地震やその後の生活について大人や社会に伝えたいことがある **36.8%**

誰に伝えたい？総理大臣 **46.0%**

今後の復興に向けて自分の住むまちのためにしたいことがある **64.0%**

数字で見る　能登半島地震・豪雨緊急・復興支援活動

2024年1月～2024年12月25日時点の実績

緊急子ども用キットなどの提供 のべ 839人	備品支援 32ヶ所 3,084人	給食補食支援 33ヶ所 2,615人 のべ 30,934食	「子どものためのPFA」研修 8回 のべ 719人	給食簡易食器（使い捨て食器）支援 11ヶ所 826人　55回分
「こどもひろば」実施 19回 のべ 200人	子どもの居場所支援 放課後子ども教室・一日保育支援 15回 のべ 284人	屋外での「子どもの遊び場」実施 15回 のべ 492人	修学旅行 2校 32人	子どもアンケート 回答者 2,053人

※ この他、「能登子どもサポート給付金」の募集を2024年11月に開始。約4,000人の小学校6年生から高校生世代に給付金を提供。（実績は完了後に報告予定）

PARTNERSHIP INFORMATION

Interview

社員が気軽に社会貢献活動に参加
社会課題を身近に感じる機会に



GSK

グラクソ・スミスクライン株式会社
コミュニケーション

水田 紗由美 様

世界中の子どもたちが健康に育つことに貢献

私たちは、サイエンス、テクノロジー、人財を結集し、力を合わせて病に先手を打つことを存在意義としています。セーブ・ザ・チルドレンとは2013年からグローバルパートナーシップを組み、世界中で社員のボランティア参加や募金活動などを通して連携を深めています。私たちの「Ahead Together」という志は、セーブ・ザ・チルドレンが掲げる「子どもを誰一人取り残さない世界へ」とも通じるもの。病気の予防とその経過を改善し、健康を守ることで、世界中の子どもたちが健康に育つことに貢献していきます。

海外では、ワクチンを一度も接種したことがない「ゼロ投与」の子どもを減らす取り組みをナイジェリアとエチオピアで実施しています。国内では、社員食堂での「セーブ・ザ・チルドレンへの寄付つきメニュー」の提供や、「子どもの食 応援ボックス」へのボランティア参加の推進などにより、社員が気軽に社会貢献活動に参加でき、社会課題を身近に感じる機会を作っています。



事業活動や、身近な関心ごとに引き寄せて支援の輪を広げたい

コロナ禍における学童保育向けに、セーブ・ザ・チルドレンと協力して「衛生管理オンライン講座」を実施しました。社内医師の協力で感染症対策のレクチャーを行うことで、子どもの健康を守ることに貢献できたと考えています。また昨年は、能登半島地震から1年を区切りに「子どもの防災」をテーマとした社員向けワークショップを開催。社員自身のお子さんの防災や、災害時の心身のケアについて考えてもらいつつ、被災地の子どもたちの声を聞くことで、災害時の子どもの支援をより身近に感じてもらうきっかけになりました。

今後もヘルスケアに貢献する企業として、社内でアクションの輪を広げていくとともに、地域社会へ貢献していきます。

Information

CAPCOM®

子どもの健やかな育ちを願い
国内外の子どもたちを支援



ゲームソフトメーカーの株式会社カプコンからは、2023年はトルコ・シリア大地震緊急子ども支援事業、2024年は日本の子どもの貧困問題解決事業にご支援いただきました。子どもたちの健やかな育ちのためにと、いただいたご寄付は、トルコ・シリアの被災地や困難な状況にある子どもたちへ支援活動に活用しています。

MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better

従業員の皆さまの力で
危機に直面する子どもたちを支援



総合電機メーカーの三菱電機グループには、従業員からの寄付に会社が同額をマッチングする三菱電機SOCIO-ROOTS（ソシオルーツ）基金を通じてご支援をいただきました。いただいたご寄付は、能登半島地震、トルコ・シリア大地震、ウクライナ危機で困難な状況に直面した子どもたちの支援活動の大きな支えとなっています。

LOGISTEED

日本と世界の子どもたちが
安全・安心に過ごせる
豊かなコミュニティづくりのために



総合物流企業のロジスティードは、より豊かで安全・安心なコミュニティづくりへの支援の一環として2021年より日本と世界の子どもたちの課題解決のためのさまざまな活動を支援してくださっています。特に国内では「子どもの食 応援ボックス」の物品提供や梱包作業ボランティアなどでもご協力いただいています。



スタッフの一日

マダガスカル駐在員
木村 奈穂



マダガスカル南東部で、農家と青少年への生計向上や、地域に根差した子どもの栄養不良の予防・対応能力強化を通して、子どもの栄養状態を改善する支援を行っています。

マダガスカル
ってどんな所？

マダガスカルはアフリカ大陸の東側に位置する島国で、日本の約1.6倍の国土に約3,200万人が住んでいます。キツネザルやバオバブの木などユニークな生態系が魅力的な一方、毎年のようにサイクロン被害に見舞われ、食料不足や子どもの栄養不良といった深刻な課題に直面しています。

1 マナオーナ！
7:00（おはようございます！）



首都アンタナナリボの事務所と、事業地がある南東部マナンジャリの事務所に勤務しています。それぞれ18人ほどのスタッフがおり、公用語のマダガスカル語とフランス語が飛び交っています。

2 7:30～ 午前の仕事

首都から国連機で1時間かけて事業地に向かいます。この日は、約4ケ月にわたる生計向上の研修を修了した125人の青少年の卒業式に参加します。一人ひとりに卒業証書を手渡し、研修を終えた感想について聞きます。



3 12:30 ランチ

事務所の調理スタッフが作ってくれたランチをみんなでテーブルを囲んで食べます。主食の米に加えて、肉か魚、そして生野菜が添えられています。デザートには、マンゴーの皮を手で剥いて丸かじりします。



4 13:30～ 午後の仕事

午後は、飲み水や調理に使う水の浄化方法について、地域の母親・父親たちに研修を行います。汚染された水は下痢や感染症を引き起こし、栄養の吸収を妨げたり、体力を奪ったりすることで、子どもの栄養不良を悪化させます。



5 17:00 退勤後



勤務後は、たまに同僚とアイスやご飯を食べに行きます。週末は国立公園に行ってカメレオンやキツネザルを眺めたりしています。

くわしくは
こちらから
アクセス！

あすのコンパス

〈― 見つけよう、キミらしい方角 ―〉

子ども向けウェブサイト「あすのコンパス」公開

すべての子どもにある「子どもの権利」や、セーブ・ザ・チルドレンの活動の紹介を通して、子どもやユースが自分らしく進む方向を考えられるようにするためのウェブサイト「あすのコンパス」を公開しました。



子どもの権利について
CHILD RIGHTS

子どもの権利全般についてくわしく学べる教材やゲーム、自主学習や自由研究に使えるワークシート、政府や自治体の取り組みを紹介します。

自分と社会・世界
ISSUES

子どもに関わる社会や世界の問題について、セーブ・ザ・チルドレンの取り組みを紹介。自分ができることを考えるきっかけに、興味や関心のあるテーマから読んでみよう！

ちょっと一息
BREAK

勉強の合間など、ちょっと一息つきたい時は気軽にアクセス！セーブ・ザ・チルドレン職員の仕事をマンガで読んだり、世界の文化について見てみよう！

参加する
ACTION

子どもの権利に関するイベントやキャンペーンを紹介しています。子どもの権利を考えるきっかけにしたり、自分にできることを見つけよう！

編集後記

ガザ地区で一時停戦が合意されました。しかし、予断を許さない状況で、飢えや病気に直面する子どもたちを守る支援は続きます。特集では、紛争下で暮らす子どもたちの想いや願いを紹介しています。子どもたちの願いが叶うことを切に願っています。（編集担当：鳥養）

Save the Children

www.savechildren.or.jp

セーブザチルドレン　検索

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界110ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際組織です。子どもの権利が実現された世界を目指し、100年以上にわたり活動しています。

＊この冊子の印刷におきましては、株式会社 技秀堂にご支援いただきました。

表紙写真：
シリアの国内避難民キャンプでセーブ・ザ・チルドレンの支援を受ける子ども（2024年10月撮影）

ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C021940
www.fsc.org
この冊子はFSC®認証紙を使用しています。

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター No.86 2025年3月発行 発行元：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F ご支援に関するお問い合わせ：03-6859-0068